

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人 大阪府漁業振興基金
-----	------------------

〔1〕

成果測定指標	単位	R7年度目標値	R7年度実績値	目標値との差
稚魚歩留まり達成率	%	135.0	126.4	△ 8.6

未達成の要因					要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応	
①	ヒラメの歩留まり率の低下				他機関から入手したヒラメ稚魚17万尾に大量のへい死が発生し、歩留まり率が26.5%となった。このため、急遽、他府県の栽培センターから、選別後に不要となった稚魚11.3万尾を譲渡してもらい、これの歩留まり率は85.8%であった。その結果、ヒラメ全体の歩留まり率が50.2%となった (参考) 令和6年度のヒラメの歩留まり率は74.2%					 今回のヒラメのへい死は原因不明(ウィルス検査も陰性、入手先でも同様のへい死が発生。) 今後は入手前に、入手先の生産状況を逐一確認し、不調であれば入手先変更なども含め対応を検討。	
	関連項目名	ヒラメ歩留まり率	単位	%	R7当初想定値	73.3	R7実績値	50.2	差		

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人 大阪府漁業振興基金
-----	------------------

〔2〕

成果測定指標	単位	R7年度目標値	R7年度実績値	目標値との差
栽培事業費	千円	52,500	58,575	6,075

未達成の要因					要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応	
①	餌代等の増加				令和8年11月の「全国豊かな海づくり大会大阪大会」開催に伴い、令和7年度途中に令和8年度のキジハタ放流時期を例年の4月・10月から4月に変更することが決定。 このため、令和7年度にキジハタの生産量が例年より増加するとともに飼育期間が長くなったことから、餌代等の費用が増加。 (参考)キジハタ生産尾数:R6年度 36.3万尾、R7年度 61.7万尾 また、令和8年度から餌代の値上がりが見込まれるため、前倒しで餌等を購入したことで餌代が増加した。(約1,800千円)						令和8年度は例年と同数のキジハタ生産を計画していることから、餌の量は増加しない見込み。 令和7年度に前倒しで餌を購入したため、令和8年度は増額しない見込み。
	関連項目名	餌料費	単位	千円	R7当初想定値	4,618	R7実績値	11,646	差		7,028

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人 大阪府漁業振興基金
-----	------------------

[3]

成果測定指標	単位	R 7 年度目標値	R 7 年度実績値	目標値との差
事務局費	千円	28,052	28,441	389

未達成の要因					要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応
①	人件費の増加				当法人の給与は府の水準に準拠しており、人件費（給与手当、福利厚生費、賞与引当金）について、府の給与改定により、想定より増加した。					 引き続き、計画的な業務執行による残業の抑制など、人件費の抑制に取り組むとともに、光熱費等その他事務経費の削減に務める。 なお、次期中期経営計画においては、今後想定される人件費増加を見込んだ収支計画を立てる。
	関連項目名	給料手当 福利厚生費 賞与引当金	単位	千円	R7当初想定値	22,370	R7実績値	22,684	差	